

【暫定版】

中 長 期 計 画 書

－ ビジョン 2030 再生から発展へ －

(令和8年4月1日～令和13年3月31日)

目 次

ビジョン 2030	2
第1章 現状の総括と次期計画における課題	3
1 全体的な総括と課題	3
2 領域ごとの総括と課題	3
(1) 法人運営	3
(2) 教 育	4
(3) 研 究	4
(4) 医 療	4
第2章 計画期間に取り組むべき目標・事業	5
1 全大学(法人全体)の視座	5
2 各領域の視座	6
(1) 法人運営	6
(2) 教 育	7
(3) 研 究	9
(4) 医 療	11
第3章 計画期間に達成する目標 (KGI・KPI)	13

【重点方針】

東京女子医科大学は 2026 年度からスタートする中長期計画「ビジョン 2030」のもと再生と発展の歩みを強め、来る 2030 年の創立 130 周年には女子医大の伝統を現代に活かして復活させるべく邁進する。その中核となるのは病院の再生と大学の再生である。

病院においては医療安全を最重要課題として維持強化し、患者、市民参加型の医療安全システムを確立する。最先端の医療を提供する女子医科大学病院の伝統の強みを再構築するため本院は、心臓、脳神経等の臓器別センターを再構築する。本院の特定機能病院の再承認の早期実現を期する。足立医療センターと八千代医療センターは地域医療の中核病院の地位を確固たるものにする。法人収益の大宗を占める医療収支を早期に健全化する。

大学においては、教育の先進高度化を推進し自立した女性医療人を育成する。大学認証の適合評価の早期再取得を目指す。法人財務の早期健全化とともに、立地を生かした病棟・施設の整備計画を具体化し、新たな遊休不動産活用を図る。

第1章 現状の総括と次期計画における課題

1 全体的な総括と課題

本法人は、元理事長の下で発生した一連の不祥事の要因となった法人ガバナンスおよび内部統制の機能不全を極めて重く受け止めている。東京女子医科大学第三者委員会の調査報告書を公表するとともに、学生・保護者・卒業生・教職員・患者をはじめとする多くのステークホルダーの皆様にも多大なご心配とご迷惑をおかけしたことを、改めて深くお詫びする。

ステークホルダーの皆様への信頼回復に向け、本学の理念である「至誠と愛」に立ち返り、改革に向けた対応方針としてガバナンスの再構築に向けた約130項目に及ぶ改善計画を自ら策定し学内外に公表し、その着実な実施に全力を挙げてきた。加えて、外部委員による経営改善会議の意見を踏まえながら、ガバナンスの再構築およびコンプライアンス意識の向上に全学を挙げて取り組んできた。また、女子医大の教育・医療の伝統のブランド力を再生し、本学が持続的に発展していくためには、財務の健全化が不可欠であるとの認識を全学で共有し、概ね3年程度での財務赤字解消を目標に、4つのタスクフォースを新設し、3病院が横断的に連携しながら、収支改善に向けた施策の検討および実行を進めている。

旧体制下で生じた事案への対応については、厳正かつ適正に進めている。不祥事に関与した元理事長をはじめとする元役員に対しては、責任追及委員会において損害賠償責任の追及を行うとともに、法的責任とは別に、学内運営上の責任の所在を明確にするため検証委員会による検証を実施し、所要の学内処分に関する提言を取りまとめた。さらに、教職員の心理的安全性が損なわれたことを重く反省し、風土改革委員会において再発防止を目的とした心理的安全性確保の宣言を策定した。

以上の取組により、本法人は改革の基盤整備とガバナンス再構築に一定の成果を上げてきており、引き続き実効性あるガバナンスの確保・強化、コンプライアンスの向上に取り組んでいく。他方、財務健全化の達成は、なお喫緊の課題となっており、財務収支の早期健全化に全力を挙げて取り組んでいく。本中長期計画において、建学の精神および至誠と愛の理念に基づく社会貢献をめざし、これまでの危機の克服・再生を主軸とした改革を基盤としつつ、全学的な価値創造と発展へ持続的な改革を進めることが求められる。

2 領域ごとの総括と課題

前中長期計画期間における法人運営、教育、研究、医療の各領域の取組みを総括するとともに、本中長期計画の策定にあたり顕在化した課題を整理する。

(1) 法人運営

元理事長への権限集中の下では、各部署の自律的な取組が十分に発揮されていなかった。新体制移行後は、学内理事が業務を分担して執行する仕組みが整備され、理事の下で各領域、部署が課題解決に主体的に取り組める環境が整ってきた。ガバナンス改革を一過性の取組みに終わらせず、持続的な経営改善へと昇華させていくことが課題である。

現下の厳しい財務状況を立て直すため、各病院、各部署においてきめ細かな収支改善努力を徹底してすすめ、早期の健全化を実現する必要がある。人事面では、人的資源の重要性を踏まえ、人員の適正配置や人材育成、女性活躍支援が肝要であり、人事評価制度の整備が必要である。さらに、購買・管財・経理部門における中長期的視点を踏まえた投資最適化と遊休資産の活用、情報システム部門における IT 戦略の高度化が求められる財務の健全化と経営への当事者意識の定着を図る意識改革が重要な課題である。

コンプライアンス面では、不正事案を防止できなかった反省を踏まえ、内部統制の基本方針、コンプライアンス規程等を制定し、コンパクトで効率的な執行を目指し事務体制の抜本的改編を進めてきた。独立した内部監査部の再編、内部・外部通報制度の整備、CIO を中心とした情報管理体制の確立など、再発防止に向けた基盤は整備されてきたが、危機管理広報体制の充実、事務組織の効率化等、制度の定着と実効性の維持・向上が今後の課題である。さらには、従来の三様監査の枠を超えた、常勤監事を中心とする統合的監査体制の確立・強化により、理事会のモニタリングをはじめとする全学的な内部統制の高度化と法人価値創造に貢献する。

(2) 教育

前計画期間においては、新たな学修プログラムの考案については、明確な成果は限定的であり、担当者の役割や教職協働の在り方に課題が残った。一方、ジェンダー教育や女性登用については一定の成果が認められる。

今後は臨床実習における参加型教育の抜本的改善、労務管理の平準化、教育費・研究費の区分と運用の適正化を進め、教育研究体制を安定的に発展させることが本中長期計画の重要課題である。

(3) 研究

研究戦略会議を中心に活発な議論が行われ、研究課題は着実に推進されてきたが、国際的な認知水準に達しているかの検証は十分とは言えない。

今後は目標の定量化と道筋の共有、研究倫理体制の高度化、ダイバーシティ研究環境の学外評価定着を進めるとともに、研究者の労務管理、研究費獲得および知的財産戦略の強化に向けた体制再構築が本計画における主要課題である。

(4) 医療

過去の重大医療事故の教訓を風化させず、高度な医療安全水準を確保・維持していく取組みをさらに強化することが最優先課題である。新興感染症対応体制の整備は成果を上げており、今後は診療・教育を止めない病院運営体制を構築する。持続的な病院運営のためには、病院収支の立直しが必須である。予実管理に基づく月次等の目標を徹底し着実に達成していくことが財務健全化には不可欠となる。心臓、脳神経等の臓器別の新たなセンター制の再構築など、女子医大の強みを活かした高度で安全な医療の提供を目指し、この地域がメディカルビレッジと

称されるような地位を確立し、地域医療機関との連携を強化する。また、優れた人材の確保・育成と働きやすい職場環境整備を進める。

上記の取組みを踏まえ、3病院が病院機能評価で承認された成果を基盤としつつ、本院における特定機能病院再承認を実現することが喫緊の課題である。

第2章 計画期間に取り組むべき目標・事業

1 大学(法人全体)の視座

本中長期計画は、これまで継続的に進めてきた改革の取組みを確かな基盤とし、それらを一過性の対応に終わらせることなく、組織として定着・深化させていくことで、将来にわたる価値創出と持続的発展を実現するための計画として位置付けるものである。本法人の建学の精神および理念に立脚し、教育・研究・医療を中核とする大学としての機能を最大限に発揮するため、法人全体が一丸となって実行力と統合性を高めていくことを基本的な方向性とする。先進的、全人的かつ安全な医療の追求を通して、自立した女性医療人、AIを使いこなす女性医療人を育成するとともに、最先端の医療を安全に提供し、かつ、温かく患者に寄り添う病院の定評を確立させる。

<建学の精神>

医学の蘊奥（うんおう）を究め兼ねて人格を陶冶（とうや）し
社会に貢献する女性医人を育成する

<理念>

至誠と愛

本中長期計画の基本方針に基づき、これらの目標を実現するため、教育・研究・医療および法人運営・財務の各領域において、業務執行理事が先導する執行体制の下、明確なビジョンと実行計画を策定する。その際、KGI・KPIを適切に設定し、進捗状況を定期的に検証・評価することにより、PDCAサイクルを実効的に機能させる。各部門・各組織の取組を個別最適にとどめることなく、全学的な戦略として有機的に統合し、具体的な成果につなげていくことを目指す。

本中長期計画の最終年（2030年）は本学創立130周年にあたり、復活を期して“再生”と“発展”を実現する完成形の姿と位置づける。そのような観点から、本中長期計画を「ビジョン2030」と呼ぶこととする。

2 各領域の視座

以降では、以上を踏まえ、法人、教育、研究、医療の各領域について、本中長期計画において取り組むべき改革、施策を体系的に示していく。

【法人運営】

(1) 改善計画に沿って再構築してきたガバナンス体制の適切に維持・強化し、コンプライアンス意識の醸成を図る。また早期の財務健全を達成する。業務執行理事が先導してPDCAを機能させる

理事会が主導してガバナンスの維持・強化を図るとともに、戦略的・重点的な討議を通じて、医療安全の強化、教育・研究の質向上、財務健全化等の改革を推進する。

医療安全の維持・向上のため、安全監査講評を公開することで透明性と信頼性を高め、また、医療安全啓発センターを中心として、重大事故の教訓を風化させずに医療安全の重要性を可視化・啓発し、患者・市民と協働で医療安全文化の醸成を図る。(医療安全・危機管理部)

2027年度を目途に大学の認証評価における適合認定を再取得するため、自己点検・評価委員会を中心に徹底した見直しを行う。(総務部)

改善計画及びビジョン2030の着実な実行及び財務健全化推進を徹底し、定期的に進捗レビューを行い、監督官庁等へ報告するとともに学内外へ公表する。(企画部)

法人の内部統制環境をモニタリングして倫理・コンプライアンス意識の浸透と徹底を促し、全学的な内部統制整備、リスク管理、ガバナンスを推進するカルチャーを構築する、内部及び外部の通報制度の適切な運用により教職員の心理的安全性を高め、オープンかつ率直なコミュニケーションを推進する文化の醸成に貢献する。(内部監査部)

責任追及委員会を適切に機能させ旧体制の責任追及を厳正に進める。

(2) 早期の財務健全化を達成するため、計画期間前半に集中的に収支改善のための改革を行う。中長期計画と各年度計画の整合性を図りながら中長期計画と単年度計画を連携させる

学内横断的タスクフォースの検討、事務長会議等を中心に3病院が一体となって予実管理を徹底して収支改善を図り、2027(令和9)の黒字化を目指す。(財務部、企画部)

単年度ごとに中長期計画の進捗を管理して評価を行い、着実な計画目標の達成を目指す。計画途中であっても再評価を行って柔軟に見直しを行う。第2病棟等の施設整備計画は財務の改善状況をみながら推進し、本院の立地を活かした有休不動産の積極的活用を図る。

(3) 学内外の構成員による理事会、評議員会及び法人運営会議を適正に運営し、活動内容を広く発信することで学内外のステークホルダーからの信頼を得て、ブランド力を再生し発展する

自立した女性医療人の育成、最先端医療を提供する「女子医大らしさ」を強調したブランドストーリーを通じて社会の共感を育み、学内外の対話を通じて、ブランド認知率・好感度を向上させる。医療・教育・研究を統合した持続的なブランドを確立して国際的な発信力を強化するため、企画部と連携して学外ホームページ及び学内イントラの整備を図る。(総務部)

(4) 所属・部署、職種ごとの適正人員を設定した上で、収支計画・予算と連動した人員計画を策定して採用を行うとともに、各種研修を通じて高度医療人を育成し、安全で安心な医療サービスを提供する

人的資源の重視することを基本としつつ、施設・部署ごとの適正人員をもとに収支計画と連動した採用計画を策定するとともに、職種ごとの人員配置を見直して計画的かつ効果的な新卒・経験者採用、配置転換を図る。各種研修を計画的に推進し、知識・スキルの向上と適材適所を実現する。組織理念に沿った人材の確保と定着率の向上を図り、安全安心で質の高い医療サービスを提供する。(人事部)

教職員の心と体の健康診断受診率 100%を達成し、健康保持と増進を推進して心身ともに健康な職員による安全・安心に医療の提供を支援する。(健康管理センター)

(5) 施設（建物）及び設備（医療器機、IT化・DX環境）の現状を的確に把握した上で、収支計画・予算と連動した更新計画を策定して事業を行う

高額な教育・研究・医療用器具備品の更新計画の精度向上と施設整備・補修計画を策定し、施設・設備検討委員会を中心に中長期計画と連動した施設・設備投資計画を策定、管理する。(財務部)

医療/教育 DX 推進、全館 Wi-Fi 整備による患者さんや学生への価値提供の幅が広がるクラウドベースの医療/教育システムや働き方改革（業務効率化）に関するツール導入を検討し、サーバーを集約し経費節減を図りつつインフラネットワーク基盤等の刷新計画を推進する。(企画部)

[教育]

教育領域においては、高度専門職業人および次世代研究者の育成を通じて社会に貢献することを基本とし、主な目標は次の通りである。なお、大学院医学研究科、大学院看護学研究科に関しては、教育との関連性を考慮して、本節で記述する

(1) 医学部及び看護学部のカリキュラムの改訂を行い、教育の先進高度化を実現する

医学教育においては、低学年から臨床科目を前倒し、病棟シャドウィングや基礎の実習もできる限り病棟で行う、またシミュレーション教育の拡充や初期研修医レベルに引き上げた診療参加型臨床実習を主軸としたカリキュラム改訂を検討する。

看護学教育においては、3Policy（DP：ディプロマポリシー、AP：アカデミックポリシー、CP：カリキュラムポリシー）の見直しを含めた JABNE（日本看護学教育評価機構）の受審に向けた準備及び審査を受けて教育の質向上を図る、教育の質向上に向けた取り組みのカリキュラム改訂を検討する。

教育・研究を支える知的基盤である図書館は、EBM ツールを利用した学修を学生に浸透させる。そのため、AI を活用した信頼性の高いデータベースを導入する。

(2) 医療安全教育を充実させ、学部教育レベルから教員と学生全員の意識改革を行うことで、医療施設の医療安全を促進する

医学部、看護学部は、充実した医看協働による安全教育の推進や施設・組織全体における安全環境の充実を図る。

医療現場での安全確保には、事故発生後の対応だけでなく、教育による予防的取組が不可欠である。医療安全学講座を開設し、学部教育段階から医療安全教育を体系的に充実させ、教員と学生の意識改革を図ることで、医療安全文化の醸成と医療施設全体の安全性向上を目指す。

大学院医学研究科は、人体に有害な化学物質を取扱う研究室において労働安全衛生法を順守することで教員と大学院生の安全意識を向上させ、研究施設と医療施設の安全を促進する。

(3) 教員の教育貢献を多角的に評価し、教員の質向上と満足度向上を並行して実現する

医学部では、授業評価アンケートスコア、OSCE 評価回数、授業改善実績、教育 FD 実施回数、定量化した学生の学力向上成果などをデータベースに登録し、ヒストグラムや順位付け（例：上位 5%）により教員が教育業務にどの程度取り組んでいるかを客観的な数値で可視化する。

看護学部、看護専門学校では、教育・学生支援・学務運営など可視化し、公正で透明性の高い評価体制を構築する。各教員に評価指標にもと基づいた自己評価、他者評価を実施し、省察の機会を得て教育の質向上に務める。

図書館では、教職員の研究業績データベースを収集・公開することにより、本学の説明責任と教職員のモチベーション向上の両方に寄与する。

女性医療人キャリア形成センターは、大学の組織として女性医療人を育成・支援するユニークな役割を担っており、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）を推進するため、女性リーダー育成部門、女性医師・研究者支援部門、看護職キャリア開発支援を行うことで上位職登用、研究力向上による外部資金獲得、離職防止・復職支援、キャリア・メンタル支援を行う。

(4) 教育体制のDX化により、教職員と学生の学修効率を向上させて、全人的な教育による「至誠と愛」に相応しい成長の機会を確保する

学部事務局においては、講義や実習など学生対応以外の教育業務を軽減するため、生成AIサービスを活用する。教員は、DX化したツールにより、学生の学力に応じた指導を実現し、本学での学びが学生にとって飛躍的な学修効果に繋がる教育方法を実施する。

(5) 学内だけでなく、医学・看護学教育に関して学外組織や他学との連携強化によってフロントランナーの地位を獲得する

医学部は、急速に変化する多様な医療環境に対応しうる次世代医療人の育成を目的として、学内外の教育資源を融合させた共創型教育プラットフォームを構築する。それにより、卒業時には高い実践力を習得させる。

先端生命医科学センターは、国内外からの優秀な大学院生の獲得、各研究の加速、次世代リーダーを育成するため、本学独自の学際的な研究テーマの明示、国内外への積極的な大学院生募集、企業研究者への働きかけ、奨学金制度を導入するなど大学院における持続可能な教育研究体制を構築する。

[研究]

研究部門は、大学院医学研究科、大学院看護学研究科（前節で記述）のほか、共用機器管理、研究デザイン支援等の機能を担う総合医科学研究所、早稲田大学と連携して設置している先端医科学研究センター、遺伝子改変動物その他の実験動物の管理、研究を担当する実験動物研究所、研究倫理、外部資金、知財の管理等を担う研究支援センター等により構成される。また、基礎医学教室での基礎的研究や臨床医学教室での豊富な症例をベースにした臨床研究を推進する

(1) 個々の研究者の研究環境の改善により研究の質向上を推進する

先端生命医科学センターは、テクニカルスタッフの充実、データサイエンティストの配置、資金獲得・研究戦略立案・関連書類作成支援人材（URA）の配置などの研究支援人材の拡充を図る。

教育研究成果（学会発表・論文執筆・外部資金申請/獲得・アウトリーチ・人材育成・社会貢献など）に対する評価基準の策定、研究成果に応じたインセンティブの設定（手当・研究費・投稿料等）と付与を図る。

総合医科学研究所は、共同利用施設として共用機器へのアクセスを促進し、研究者の研究効率の向上を図る。

実験動物研究所は、知識と技術を要する動物実験の講習会などを通して、実験者の動物実験をサポートすると同時に、遺伝子改変動物の提供などによる疾患モデル研究の推進を図る。

研究推進センターは、事務手続きの簡素化・効率化（DX 推進）を図り、公的研究費の各種手続きの利便性を向上する。

(2) 研究者の経営感覚とコンプライアンスの向上を通して公的研究費・民間助成金の獲得を推進する

先端生命医科学センターは、企業の研究開発目線を意識した産学連携活動、メディカルイノベーションラボ（MIL）や共有設備利用の誘致活動をするなどして、産学連携推進による研究費を獲得する。

総合医科学研究所は、臨床研究支援を通じて・治験・創薬・診断法の開発に資する産学連携の基盤を構築し、外部資金の獲得拡大に繋げる。さらに、研究成果を診療へ還元することで、患者さんにとって魅力ある医療機関づくりにも貢献する。

実験動物研究所、メディカル AI センター、高度小児希少難病センターは、公的研究費、民間助成金の獲得により研究を推進し、成果発表により大学の信頼性や知名度向上に貢献するとともに学内外連携による持続的な研究基盤を確立する。

研究推進センターは、公的研究費に申請したことが無い研究者向け講習会の実施、また研究倫理指針等の遵守の徹底を通じて公的研究費の適正使用の監督に努める。

(3) 知財やノウハウを資金獲得に繋げ、研究者個人のインセンティブに向けた制度の確立を行う

先端生命医科学センター、総合医科学研究所、実験動物研究所、メディカル AI センター、高度小児希少難病センター、研究推進センターは、知財専門家によるセミナーや個別相談の実施、特許検索・特許出願・特許戦略に関する on the job トレーニング、特許取得に至るプロセスにおける発明者へのインセンティブ制度の整備を推進する。

(4) 大学の世界的な知名度向上と信頼性獲得のために、優れた研究を発信するべく広報との連携を強化する

先端生命医科学センター、総合医科学研究所、実験動物研究所、メディカル AI センター、高度小児希少難病センター、研究推進センターは、国際会議・学会での積極的な発表、海外アカデミアとのネットワーキングの推進、国際シンポジウムの開催、および各内容のホームページや SNS などを用いた広報に努める。

(5) 高度医療にはリスクが伴うので、医療安全体制の徹底とセットで推進を行う

医療安全の実現は、個人の注意力や努力の積み重ねが必要であることは言うまでもないが、医療を実施する環境を整備することも有効である。医療現場の状況を客観的に評価し、エビデンスを蓄積することでエラーを防ぐ方法を定着する研究を推進する。

医療機器の開発の研究を行う際に、事故を防ぐ仕組みを備えた開発を行うことで、より安全な医療が行える技術を提供する。

[医療]

本学は、附属施設として、東京女子医科大学病院（本院）、附属足立医療センター、附属八千代医療センター、附属東洋医学研究所を有する

(1) 高い水準の医療安全体制を堅持し、持続的に発展させる。患者参画、市民参画型の医療安全を推進する

本院は、高水準の医療安全体制の維持・向上を図り、これまで以上に医療安全対策における患者・家族とのパートナーシップを推進する。医療安全啓発センターを基点として広く市民を含む医療安全の啓発、教育を推進し、医療安全の意識向上を図る。

附属足立医療センター及び附属八千代医療センターは、チーム・組織としての安全文化の醸成、医療安全対策への患者参加を促す体制の整備を通じて患者参加型医療安全の推進を図る。

附属東洋医学研究所は、防災マニュアル、感染対策マニュアルを随時更新することで医療安全体制の基盤整備を図る。

(2) 病院運営の健全化に向けた財務立て直しを図るため、三病院で医療収入の改善、経費削減、人事資源の確保、財務への意識改革に取り組む

本院、附属足立医療センター、附属八千代医療センターの医療収入は本学の財務の中核を占めており重要である。予実管理を徹底し、連携して、医療収入の改善（新規患者の獲得増、救急搬送の受入増〔断り減〕、手術室運用の効率化、DPC 最適な入退院調整による効率的なベッドコントロール、リハビリの最大実施ほか）、経費の削減（ベンチマークによる最適価格での購入、3 病院で共通医薬品・材料の購入ほか）を徹底し、2027 年度の黒字化を目指す。

(3) 三病院それぞれの強みを最大限に活かせる診療体制を構築し、それに対応する医療人材の育成を図る

本院は、最先端の医療を提供するという伝統的な女子医大の強みを強化する。医療安全、感染対策などの組織横断的機能の強化と並行して、心臓、脳神経等の臓器別センター制を再構築する。「心臓血圧研究センター」ほかを計画し、集学的な医療提供体制の整備、次世代人材の育成を図る。

中断している本院の病棟・施設整備計画の具体化を図る。本院の立地をいかした遊休不動産の活用を進めるとともに、他の医療施設と連携したメディカル・ビレッジ構想（仮称）の検討を進める。

附属足立医療センター及び附属八千代医療センターは、がん医療提供体制を整備して医療人材の育成を図る。附属東洋医学研究所は、漢方診療の実態を踏まえた科学的評価方法を確立して次世代の医療人材の育成を図る。

(4) 新たな地域医療構想に基づく医療需要に応えるべく、地域との医療連携を強化し、質の高い医療提供と機能分化の充実・強化に取り組む

附属足立医療センター及び附属八千代医療センターは、地域の中核的病院としての性格を踏まえ、地域の行政、医師会等との連携を強化し、ICT・データ活用による医療連携、急性期拠点機能としての活動、救急医療への注力、紹介患者の受入れ（連携機能）強化を着実に行うことで地域医療ネットワークを確立する。

本院は、病病連携、病診連携の強化、院内の医療連携体制の再構築、地域への情報発信、地域への派遣の整備を図る。

(5) 働き方改革に沿った人的資源の有効活用を目的に、ワークシェア・ワークシフトを積極的に推進する

各病院は、ワークシェア・ワークシフトの推進、ITなどインフラの整備、柔軟な働き方の制度の整備、診療連携の強化を通じて、働き方改革、医療DX、チーム医療の推進を図る。

特定行為研修の充実により、高度医療人を養成することで医師の業務軽減（タスクシフト・シェア）に寄与する。

公的補助金を利用して導入する医療AI等を活用した更なる働き方改革を推進することで医療従事者の労務負担軽減、人材の定着（離職防止）に寄与する。時間外労働の短縮（全職種）により、働き方改革を推進することで時間外労働が減少して時間外手当の削減に寄与する。

(6) 三病院それぞれの基本理念の浸透を図り、心理的安全性が担保された、働きやすい職場環境の整備を推進する

各病院において、全職場（職種）において心理的安全性が担保された職場環境を実現することで、価値観の共有を図り、個人のパフォーマンスの向上を期す。

第3章 計画期間に達成する目標 (KGI・KPI)

法人運営 に関する目標指数	主体部署		2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
			R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
経常収支差額達成率	財務部 経理課	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	55%					
大学認証の適合評価 の再取得	総務部 総務課	目標値		自己点検 ・評価の検 証・改善	再取得			
		実績値						
経常費補助金の交付 再開（交付率）	財務部 経理課	目標値	0%	25%	50%	75%	100%	100%
		実績値	0%					
看護要員確保率	人事部 人事課	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	94%					
看護師離職率 （附属3病院）	人事部 人事課	目標値	11%以内	11%以内	11%以内	11%以内	11%以内	11%以内
		実績値	9%					
健康診断受検率	保健管理センター	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	99.5%					
教育 に関する目標指数	主体部署		2025年度 R7年度	2026年度 R8年度	2027年度 R9年度	2028年度 R10年度	2029年度 R11年度	2030年度 R12年度
医師国家試験合格率 （新卒）	医学部	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	94.6%					
看護師国家試験 合格率（新卒）	看護学部	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	95.8%					
看護師国家試験 合格率（新卒）	看護専門学校	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	92.9%					
保健師国家試験 合格率（新卒）	看護学部	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	100%					
助産師国家試験 合格率（新卒）	大学院 看護研究科	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	100%					
学内就職率の向上	看護学部	目標値	60%	60%	65%	70%	75%	80%
		実績値	%					
学内就職率の向上	看護専門学校	目標値	70%	70%	75%	80%	80%	80%
		実績値	%					
女性教員比率の向上	女性医療人 キャリアセンター	目標値	30%	30%	30%	30%	30%	30%
		実績値	%					
JACMEの再取得	医学部	目標値		見直し徹底	再取得			
		実績値						
志願者数	医学部	目標値	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600
		実績値	1,143	1,193				
志願者数	看護学部	目標値	200	200	250	300	350	400
		実績値	149	190				

志願者数	看護専門学校	目標値		177	120	140	160	160
		実績値		91				
研究に関する目標指数	主体部署		2025年度 R7年度	2026年度 R8年度	2027年度 R9年度	2028年度 R10年度	2029年度 R11年度	2030年度 R12年度
競争的研究費新規採択件数（継続以外）	研究推進センター	目標値	20	21	22	22	22	22
		実績値	20					
競争的研究費獲得額	研究推進センター	目標値	501百万円	525百万円	551百万円	551百万円	551百万円	551百万円
		実績値	501百万円					
文科省科研費新規申請件数（継続以外）	研究推進センター	目標値	250	275	288	288	288	288
		実績値	250					
文科省科研費新規採択件数（継続以外）	研究推進センター	目標値	72	75	78	78	78	78
		実績値	72					
文科省科研費採択額（新規、継続を含む）	研究推進センター	目標値	313百万円	328百万円	344百万円	344百万円	344百万円	344百万円
		実績値	313百万円					
企業導出件数	研究推進センター	目標値	1	1	1	1	1	1
		実績値	1					
産学連携支援件数	研究推進センター	目標値	200	210	220	220	220	220
		実績値	200					
医療に関する目標指数	主体部署		2025年度 R7年度	2026年度 R8年度	2027年度 R9年度	2028年度 R10年度	2029年度 R11年度	2030年度 R12年度
特定機能病院の再承認	本院	目標値		再承認				
		実績値						
医療安全文化調査肯定的回答率	本院	目標値	80.0%	80.0%	80.0%	85.0%	85.0%	90.0%
		実績値	%					
紹介患者数	本院	目標値	29,748	29,043	30,701	32,128	32,491	32,636
		実績値	27,396					
逆紹介患者数	本院	目標値	18,000	26,048	26,048	26,048	26,048	26,048
		実績値	16,917					
新入院患者数	本院	目標値	17,455	20,230	21,384	22,379	22,631	22,732
		実績値	19,104					
病床稼働率	本院	目標値	81.3%	86.6%	87.6%	88.6%	89.6%	90.0%
		実績値	81.9%					
手術件数	本院	目標値	11,000	11,733	12,403	12,980	13,126	13,185
		実績値	10,908					
救急搬送件数（2次）	本院	目標値	2,843	4,928	5,027	5,127	5,230	5,334
		実績値	4,207					
救急搬送件数（3次）	本院	目標値	360	365	372	380	387	395
		実績値	366					
医療に関する目標指数	主体部署		2025年度 R7年度	2026年度 R8年度	2027年度 R9年度	2028年度 R10年度	2029年度 R11年度	2030年度 R12年度
医療安全文化調査肯定的回答率	足立医療センター	目標値	—	45%	50%	60%	65%	70%
		実績値	—					

紹介患者数	足立医療センター	目標値	18,400	20,200	20,200	20,200	20,200	22,200
		実績値						
逆紹介患者数	足立医療センター	目標値	14,000	15,400	15,400	15,400	15,400	16,900
		実績値						
手術件数	足立医療センター	目標値	4,800	4,850	4,926	5,052	5,093	5,163
		実績値						
救急搬送件数 (2次)	足立医療センター	目標値	2,700	2,900	3,100	3,190	3,280	3,370
		実績値						
救急搬送件数 (3次)	足立医療センター	目標値	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900	2,000
		実績値						
転倒・転落発生率	足立医療センター	目標値	1.00%	1.00%	0.80%	0.70%	0.70%	0.70%
		実績値						
医療に関する目標指数	主体部署		2025年度 R7年度	2026年度 R8年度	2027年度 R9年度	2028年度 R10年度	2029年度 R11年度	2030年度 R12年度
医療安全文化調査 肯定的回答率	八千代医療センター	目標値	61.0%	62.0%	64.0%	66.0%	67.0%	68.0%
		実績値	60.9%					
紹介患者数	八千代医療センター	目標値	12,795	11,930	12,270	12,500	12,720	12,950
		実績値	11,359					
逆紹介患者数	八千代医療センター	目標値	9,080	9,180	9,360	9,540	9,720	9,900
		実績値	8,998					
手術件数	八千代医療センター	目標値	4,000	4,000	4,100	4,200	4,300	4,320
		実績値	3,812					
救急搬送件数 (2次)	八千代医療センター	目標値	3,950	4,000	4,030	4,070	4,110	4,150
		実績値						
救急搬送件数 (3次)	八千代医療センター	目標値	340	345	355	358	362	365
		実績値						

2025（令和7年）年度から2030（令和12年）年度までの学生数推移

	学年	入学定員	2025年度 R7年度	2026年度 R8年度	2027年度 R9年度	2028年度 R10年度	2029年度 R11年度	2030年度 R12年度	
医学部	1年生	110	117	120	110	110	110	110	
	2年生	110	110	110	116	110	110	110	
	3年生	110	110	113	116	116	110	110	
	4年生	110	109	105	111	116	116	110	
	5年生	110	113	111	107	111	116	116	
	6年生	110	111	105	111	107	111	116	
	合計	660	670	664	671	670	673	672	
看護学部	1年生	90	95	90	90	90	90	90	
	2年生	90	94	91	90	90	90	90	
	3年生	90	87	94	91	90	90	90	
	4年生	90	96	87	94	91	90	90	
	合計	360	372	362	365	361	360	360	
医学研究科	共同先端 専攻以外	後期1年	39	11	16	20	20	20	20
		後期2年	39	11	11	16	20	20	20
		後期3年	39	8	11	11	16	20	20
		後期4年	39	20	15	14	12	16	20
		合計	156	50	53	61	68	76	80
	共同先端 専攻	後期1年	5	1	0	3	3	3	3
		後期2年	5	2	1	0	3	3	3
		後期3年	5	5	5	6	6	6	4
合計	15	8	6	9	12	12	10		
看護学研究科	前期1年	16	8	5	10	10	10	10	
	前期2年	16	6	8	5	10	10	10	
	合計	32	14	13	15	20	20	20	
	後期1年	10	1	0	3	3	3	3	
	後期2年	10	0	1	0	3	3	3	
	後期3年	10	3	1	1	0	3	3	
	合計	30	4	2	4	6	9	9	
看護専門学校	1年次	80	84	71	80	80	80	80	
	2年次	80	81	80	71	80	80	80	
	3年次	80	70	77	80	71	80	80	
	合計	240	235	228	231	231	240	240	

2025（令和7年）年度から2030（令和12年）年度までの職員数推移

	2025年度 R7年度	2026年度 R8年度	2027年度 R9年度	2028年度 R10年度	2029年度 R11年度	2030年度 R12年度
教育職	842	923	970	984	1,009	1,034
医療技術職	733	815	815	815	815	815
看護職	1,916	1,990	2,062	2,092	2,095	2,104
事務職	405	468	468	468	468	468
技能職	62	62	60	60	60	60
一般職	33	33	30	30	30	30
合計	3,991	4,291	4,405	4,449	4,477	4,511

本中長期計画は、令和8年3月25日現在の暫定版